

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	汚泥再生処理センター建設事業費			
担当課係名	環境保全センター 課	監理係	係	作成者 齋藤 洋
総合計画での位置づけ	施策の大綱	安心・安全で潤いのある生活環境のまち		総合計画のページ
	基本計画	廃棄物の適正処理とリサイクル活動の推進		
	主要施策	汚泥再生処理センターの建設		83
予算費目	一般 会計	4 款 衛生費	4 項 清掃費	3 目 環境保全センター費
事業期間	平成 18 年度 ~ 平成 21 年度		新規 / 継続の区分	継続
性質区分	<input type="checkbox"/> 市民サービス <input checked="" type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	循環型社会形成推進交付金交付要綱			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市内の廃棄物を適正処理するため。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	現在稼働中のし尿処理施設が老朽化したため、資源化設備を備えた汚泥再生処理センターを建設し、廃棄物の適正な処理を行う。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	H18 計画業務委託15,750千円 H19~H20 本体工事 1,554,000千円 60KL/日 H20 附帯工事 63,294千円 H21 解体工事 178,689千円

【事務事業の推移】

(単位:千円)

効果	項目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績	
	活動指標	実施計画による進捗率		%	0.7	28.6	
成果指標	決算額による進捗率		%	0.7	8.8		
投下コスト	項目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額	
	事業費(人件費を除く)(A)			15,750	205,640		
	財源内訳	国庫支出金			5,250	205,620	
		県支出金			0	0	
		地方債			6,300	0	
		その他			0	0	
		一般財源			4,200	20	
	人件費(B)			11,780	12,107		
	職員数			1.50	1.50		
	職員平均人件費			7,853	8,071		
(A)+(B) 投下コスト			27,530	217,747			
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			39,328,571	7,613,531		
	市民1人当たりのコスト(円)			863	6,936		

【事務事業の今までの成果】

仙北市実施計画による平成19年度までの進捗予定率は、前年度との累計で29.3%となっているが、平成19年度末の決算ベースによる進捗率は9.5%に留まっている。汚泥談合事件などの影響により工事発注そのものが遅れた為だが、当初計画である平成21年度末までには工事が完成するため、今後の廃棄物の適正処理は計画どおり行われる。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	循環型社会の形成推進のため、単なるし尿処理施設は今後も認められない。資源化設備の併設が必須となる中、国が定めた資源化メニューの中でも、事例の少ないリンの回収を選択しているため、県、他の自治体のなどから問い合わせが多い。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	いわゆる迷惑施設であるため、年数回の地元住民代表との話し合いのなか、臭気の漏洩防止の徹底を求められている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B	A 現状のまま継続(実施)	必要性、妥当性は十分に認められるが、事業の進捗度および完成後を併せた経済性に改善の余地がありB判定とした。
	B 見直しの上で継続(実施)	
	C 大幅な見直しの上で継続(実施)	
	D 休止・廃止(統合を含む)を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容(改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。)

現在の進捗計画に無理や無駄がないか。安全性を確保しながら進捗度を上げていく。
完成後のランニングコストについて、再度、検討を加え、経済性の観点から万全なものとしていく必要がある。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	建設については計画通り進捗している。 ただし、完成後のランニングコストについて、効率的運営ができるよう検討の必要があると考える。

一次評価診断図

